
俺は俺の未来に行く

早緑月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は俺の未来に行く

【Nコード】

N2656M

【作者名】

早緑月

【あらすじ】

普通の男子高校生の渡井^と玲^{れい}が普通でなくなった事件。

序章「始まる前の日常」(前書き)

フィクションです。

内容、登場人物名など一切現実には存在しません

序章「始まる前の日常」

今日も空は曇っていた……

いや、曇っているというより冬空と言った方が適切だろう。

季節も秋から冬への転換期で、秋空もすっかり見れなくなった。春、夏、秋、冬と変わっていくこの国の四季を感じるのは好きだった。どの季節も好きだった。

「ふう……」

今日も高校の授業が終わり、いつもの帰り道を歩いていた放課後になると、教科書をカバンに入れ、すぐに家に帰るのが俺の「日常」だった

ただ、いつもと違うのは心にモヤがあることだろう

「進路希望ねえ……」

今日、昼休みに進路室に呼び出された

「いい加減お前も受験する大学を決める。いくら二年生でももう冬だぞ？」

「まだ冬じゃありません。晩秋ですよ？　僕はもう少し将来について考えたいんで待って貰えませんか？」

「そう言って結局今も決まっていなかったら？　明日までに決める。いいな。」

そう言って進路希望書をまた渡された。

そして今、俺はそれを見ながら歩いている

「大学って何だろうなあ」

いつも通り授業を受け、いつも通り帰る・・・こんな日常がまた続くのだろうか？

中学も高校も結局同じ、また大学も同じだろう

そう思いながら道を歩く・・・

．．．．．
ぐにゅ

「ん？」

何かを踏んだような気がした・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2656m/>

俺は俺の未来を行く

2010年10月14日15時28分発行